

Ⅱ. 本市の全容把握

II. 本市の全容把握

1. 宝塚市の概要	35
(1) 位置	35
(2) 国際観光都市・宝塚	35
(3) 震災と復興	35
2. 本市の各種人口	36
(1) 総人口の推移	36
(2) 世帯数・世帯人員の推移	36
(3) 人口増加率（自然増加率・社会増加率）の推移	37
(4) 年齢別（3区分）の人口比率の推移	37
(5) 年齢別（5歳階級）の人口	38
(6) 昼夜間人口の推移	38
(7) 産業別就業者数	39
(8) 常住地による従業・通学市区町村別 15 歳以上従業者数及び 15 歳以上通学者数	39
(9) 従業・通学地による常住市区町村別 15 歳以上従業者数及び 15 歳以上通学者数	40
3. 土地利用、建設・住宅	42
(1) 1 m ² 当たりの地価公示の推移	42
(2) 木造・非木造家屋の棟数及び床面積の推移	42
(3) 建築時期別住宅数	43
4. 工業、商業	44
(1) 産業別事業所数の推移	44
(2) 産業別従業者の推移	44
(3) 製品出荷額等の推移	45
(4) 近年の大規模な工場閉鎖	45
(5) 商業（卸売及び小売）の推移	46
5. 観光	47
(1) 観光客数の推移	47
(2) 観光資源	47
6. 道路、鉄道	49
(1) 道路の概況	49
(2) 市内各駅の乗車人員の推移	50

7. 上下水道	51
(1) 水道普及状況	51
(2) 公共下水道	51
8. 福祉、教育	52
(1) 保育所数及び保育人員の推移	52
(2) 幼稚園数及び在園者数の推移	52
(3) 小学校児童数及び中学校・高等学校生徒数の推移	53
(4) 市立病院利用状況	53
(5) 市内医療従事者数の推移	54
9. 安全、都市防災	55
(1) 刑法犯罪	55
(2) 交通事故件数及び死傷者数	56
(3) 原因別火災発生件数	56
10. 財政	57
(1) 財政力指数と経常収支比率の推移	57
(2) 地方税収入と義務的経費の推移	57
(3) 市税徴収状況	58
(4) 市債残高と基金残高の推移	58

II. 本市の全容把握

1. 宝塚市の概要

(1) 位置

宝塚市は兵庫県南東部に位置し、市域は南北に細長く、住宅地が広がる南部市街地と、豊かな自然に囲まれた北部田園地域に分かれている。市街地から大阪や神戸へはいずれも電車で30分ほどであり、年間を通して約858万人もの多くの観光客が訪れている。

図 本市の位置



▲南部市街地

[面積] 101.89 平方キロメートル
[位置] 東経 135° 21' 36"
北緯 34° 47' 58"
[広がり] 東西 12.8km
南北 21.1km

出典：「宝塚市統計書」平成24年版

(2) 国際観光都市・宝塚

宝塚には、年間858万人もの観光客が訪れている。「歌劇と温泉のまち」として知られているほか、安産祈願の中山寺や、かまどの神様として有名な清荒神清澄寺など市内には古い歴史を持つ神社仏閣が数多く存在する。

このほか、宝塚（阪神）競馬場やゴルフ場など観光・レジャー資源が多く、豊かな自然に囲まれたハイキングコースやまちなみの散策も魅力の一つとなっている。また、山本の植木産業は数百年の歴史があり、伝統的植木生産地域としてその名を全国に知られている。



▲宝塚大橋から見た宝塚大劇場

(3) 震災と復興

平成7年1月17日に発生した阪神・淡路大震災は、本市に甚大な被害をもたらした。阪急宝塚駅近くなどでは震度7を記録、全半壊家屋は約1万3千棟を数え、118人もの尊い命が犠牲になった。

各地の復興プロジェクトを順次進め、震災から19年を経て、安全・快適でこれまで以上に魅力あるまちへと取り組みを進めているところである。

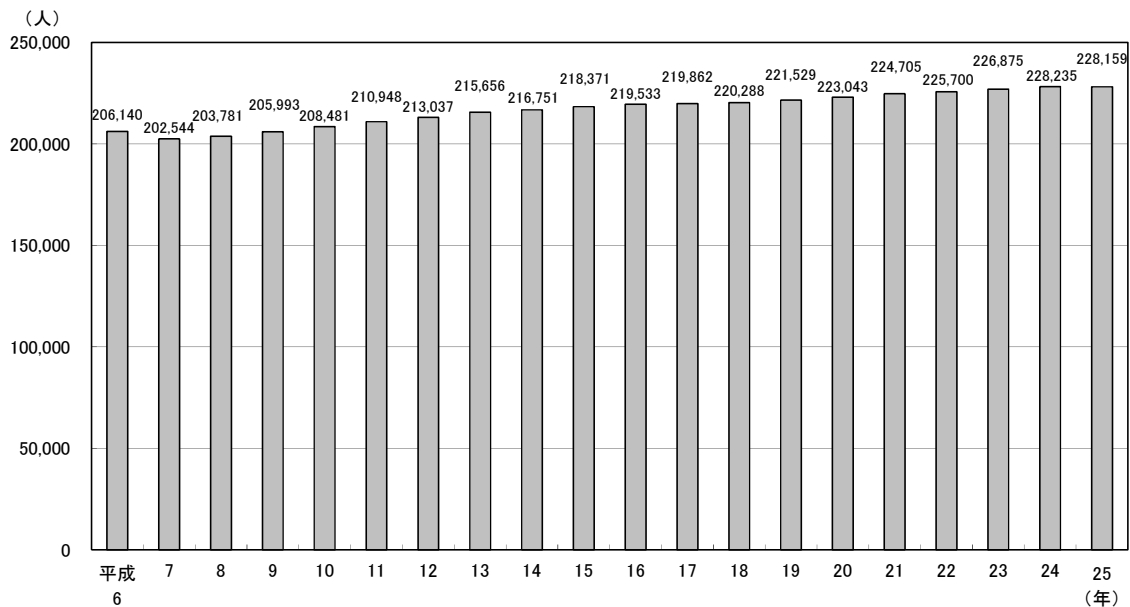


▲花のみち周辺地区

2. 本市の各種人口

(1) 総人口の推移

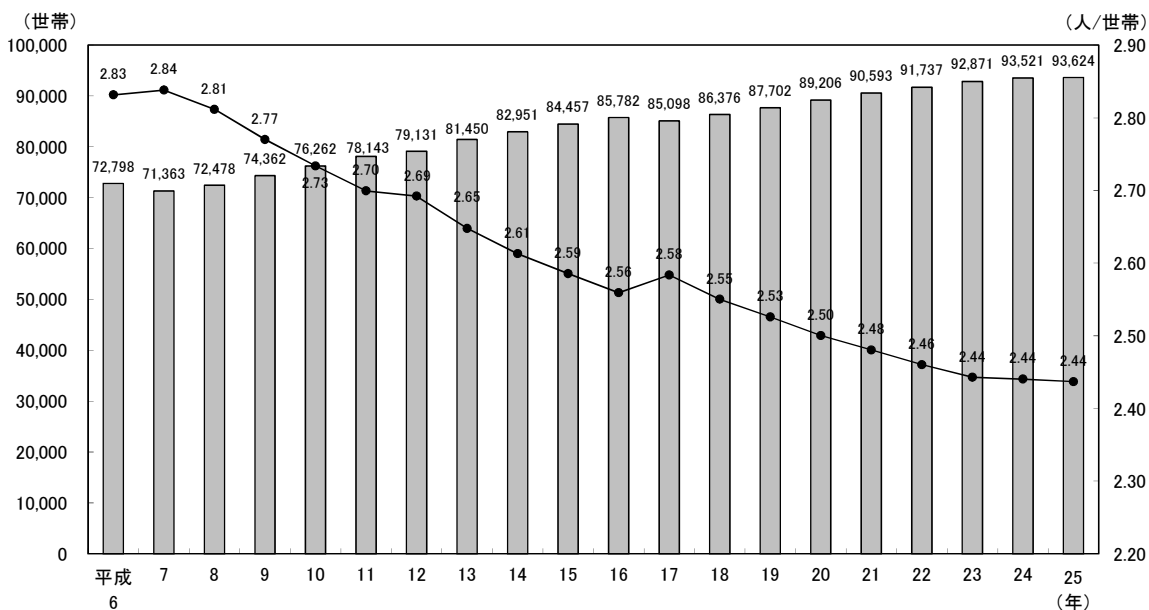
本市の人口は、平成7年の阪神・淡路大震災により若干減少したものの、それ以降毎年増加しており、平成25年10月には228,159人となっている。平成25年になり総人口の伸びが緩やかになった。



資料：各年10月1日現在 「宝塚市統計書」

(2) 世帯数・世帯人員の推移

世帯数は、人口と同様に平成7年以降増加を続けており、平成25年10月の世帯数は93,624世帯である。一世帯当たり人員は、平成7年以降減少を続けており、平成25年10月の一世帯当たり人員は2.44人/世帯である。

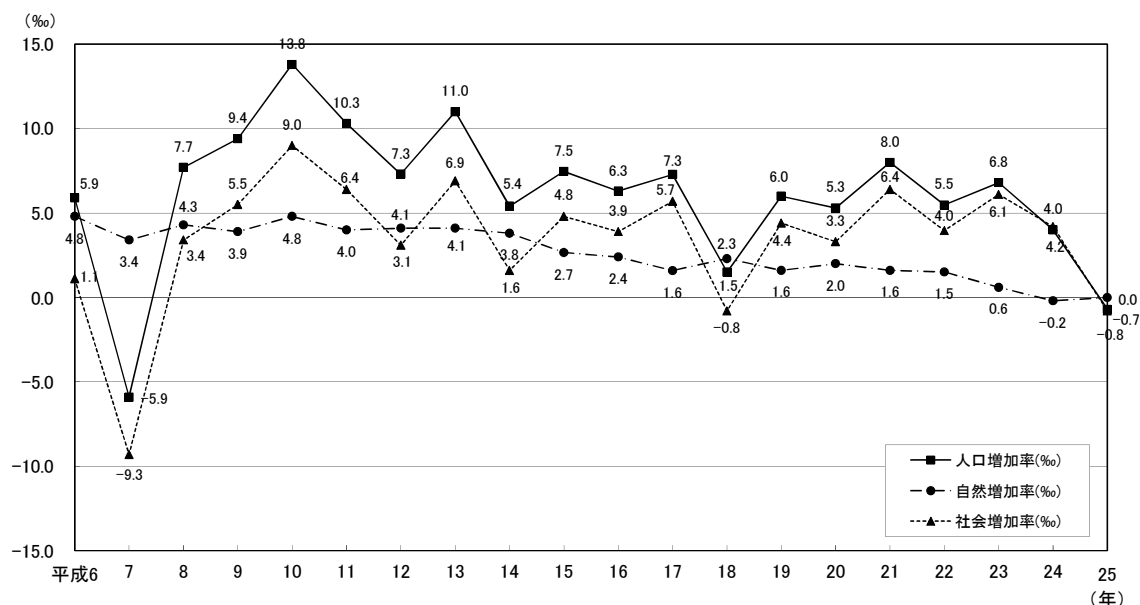


資料：各年10月1日現在 「宝塚市統計書」

(3) 人口増加率（自然増加率・社会増加率）の推移

本市の人口増加率は、平成7年を除いてプラスであったが、平成10年の1.38%からは増加率が小さくなる傾向で、平成25年にはマイナスに転じている。

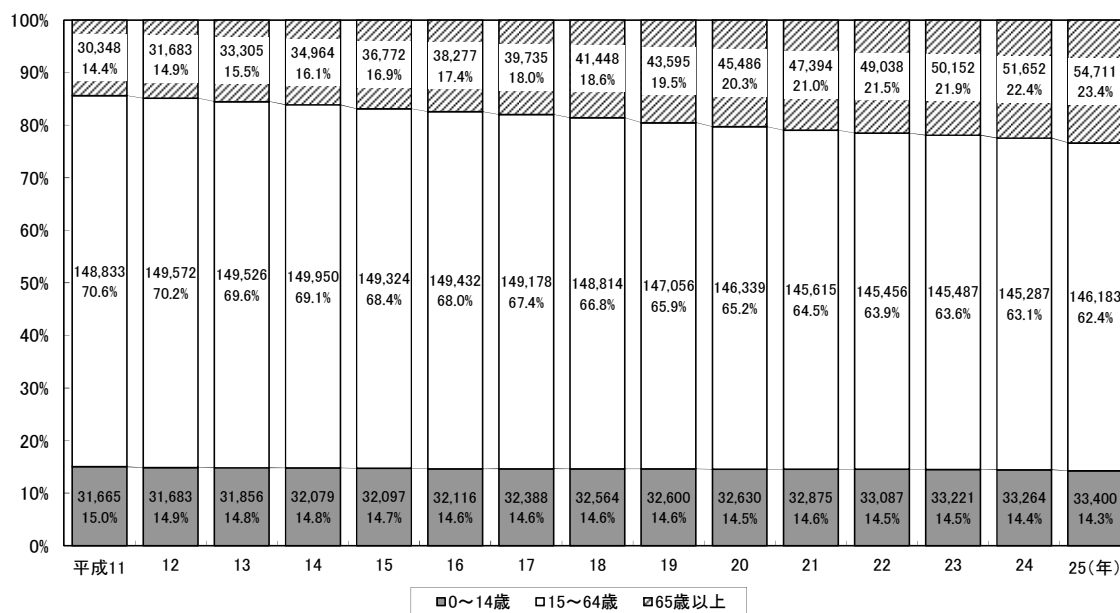
社会増加率は、人口増加率と同様の傾向で、平成25年は微減となっている。自然増加率については、平成14年までは0.4%前後で推移していたが、その後増加率は小さくなる傾向で、平成25年は増減なしとなっている。



資料：各年10月1日現在 「宝塚市統計書」

(4) 年齢別（3区分）の人口比率の推移

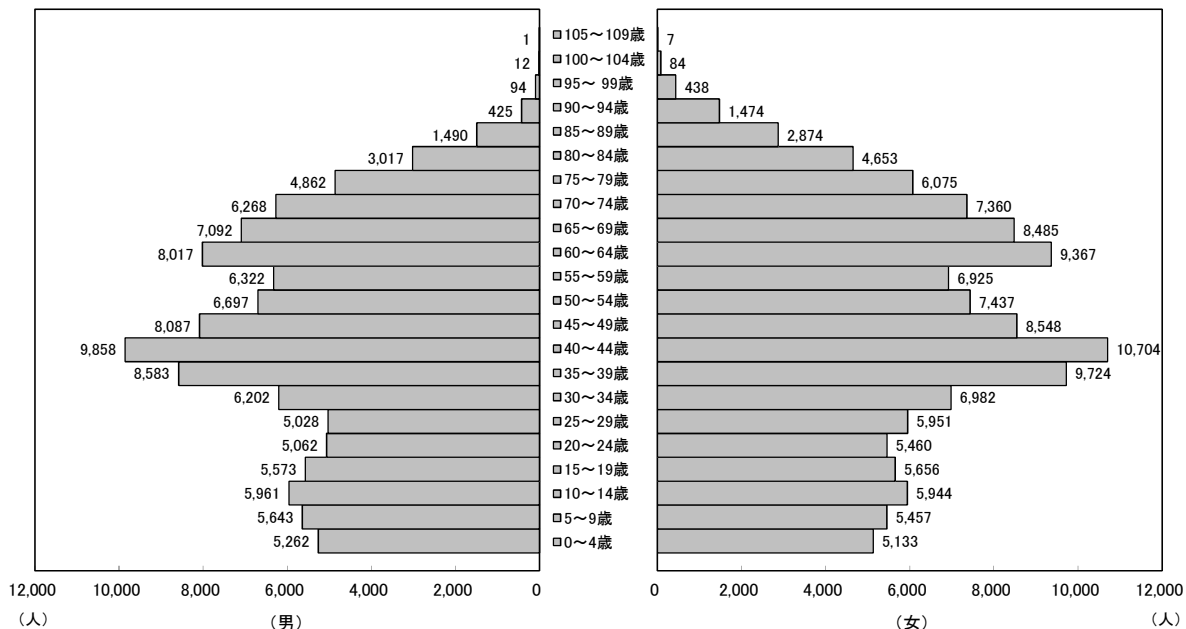
年齢別（3区分）の人口比率の推移は、65歳以上が年々増加しており、平成11年に14.4%であったものが、平成25年には23.4%となった。一方、15～64歳は年々減少を続け、平成25年で62.4%となっている。0～14歳は14%台で推移している。



資料：各年1月末現在 「住民基本台帳」

(5) 年齢別（5歳階級）の人口

平成25年1月末現在、男女とも40～44歳が最も多く、男性9,858人、女性10,704人となっている。次いで多いのは、男性の場合、35～39歳、45～49歳の順で、女性の場合は35～39歳、60～64歳の順となっている。

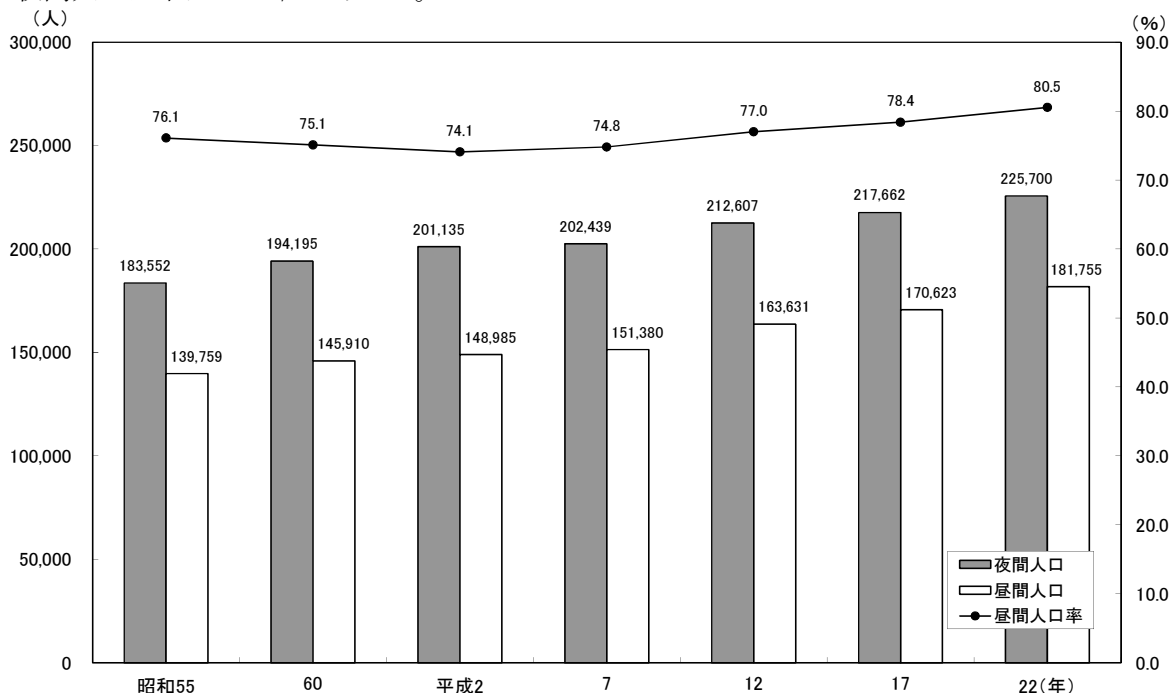


資料：平成25年1月末現在 「住民基本台帳」

(6) 昼夜間人口の推移

本市では、夜間人口が昼間人口を大きく上回っており、ベッドタウンとしての特徴がみられる。平成22年では、夜間人口225,700人、昼間人口181,755人であった。

昼夜間人口比率は、昭和55年から平成2年までは減少していたが、その後は増加してきており、夜間と昼間の人口差がやや小さくなってきているという傾向にある。なお、平成22年の昼夜間人口比率は80.5%であった。

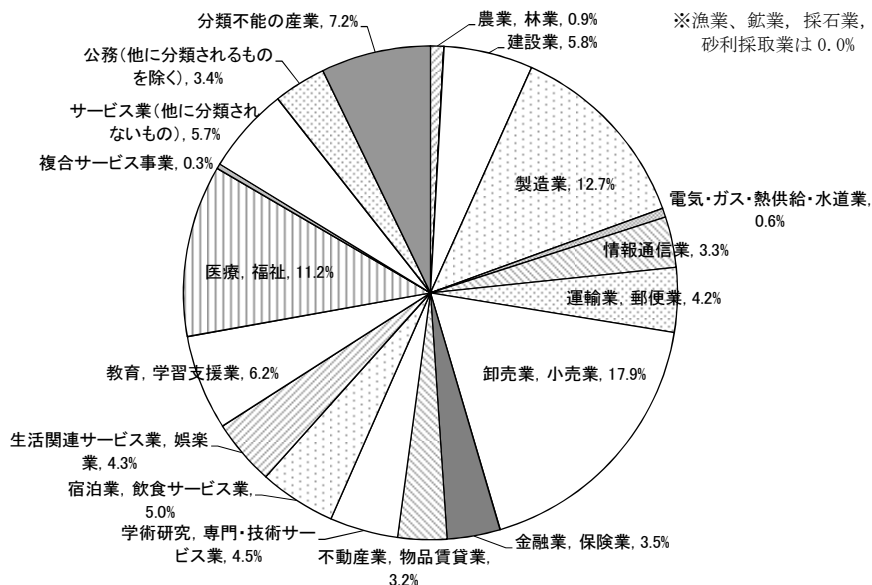


資料：各年10月1日現在 「国勢調査」

(7) 産業別就業者数

産業別就業者数の構成をみると、「卸売業・小売業」が17.9%と最も多く、次いで「製造業」12.7%、「医療、福祉」11.2%と続く。

また、第一次産業就業者数は0.9%、第二次産業20.0%、第三次産業79.1%の順に多くなっている。

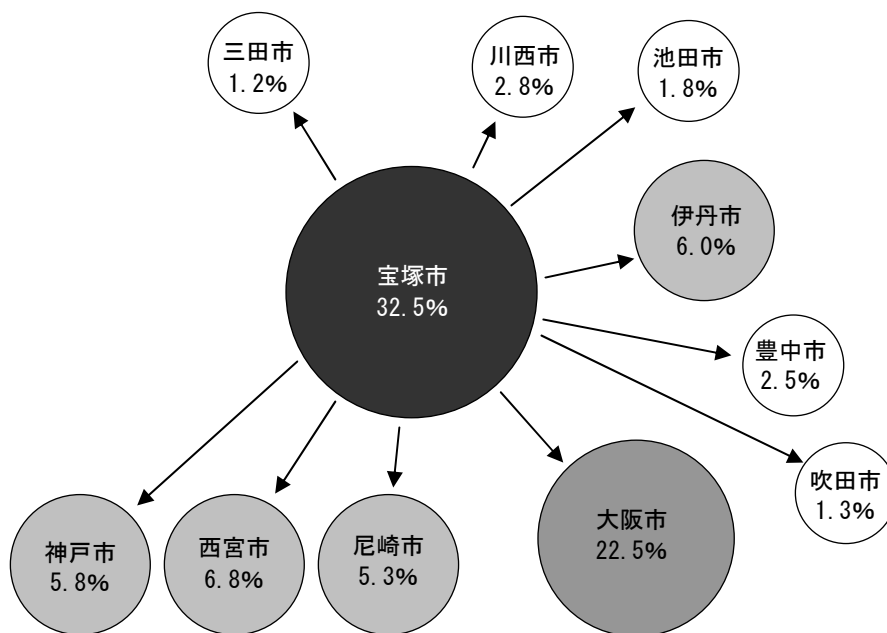


資料：平成22年10月1日現在 「国勢調査」

(8) 常住地による従業・通学市区町村別15歳以上就業者数及び15歳以上通学者数

① 就業者

本市に常住する就業者のうち、市内で就業している割合は32.5%である。市外で就業している割合で最も多い市町村は、大阪市の22.5%で突出している。次いで西宮市6.8%、伊丹市6.0%、神戸市5.8%、尼崎市5.3%と続く。

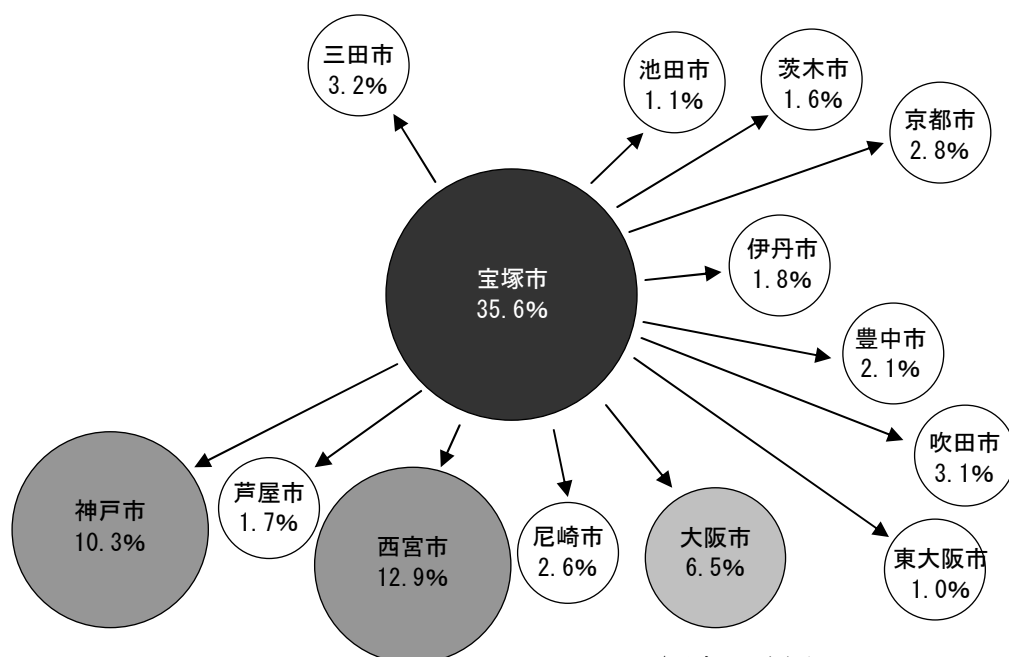


1.0%以上のみ図示

資料：平成22年10月1日現在 「国勢調査」

② 通学者

本市に常住する通学者のうち、市内に通学している割合は35.6%である。市外に通学している割合で最も多い市町村は、西宮市の12.3%で、次いで神戸市10.3%、大阪市6.5%と続く。



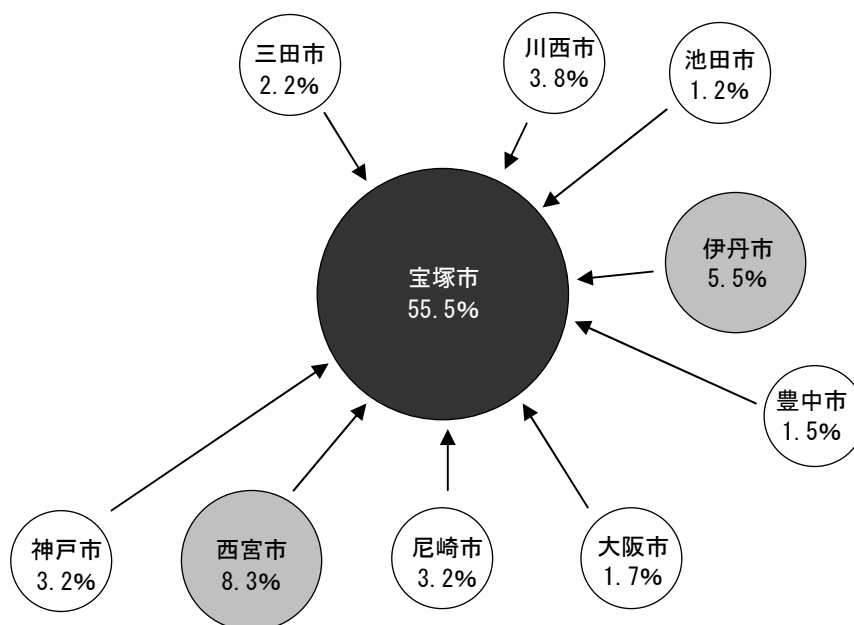
1.0%以上のみ図示

資料：平成22年10月1日現在 「国勢調査」

(9) 従業・通学地による常住市区町村別15歳以上就業者数及び15歳以上通学者数

① 就業者

宝塚市に在住し、市内で就業している人の割合は55.5%である。一方、他の市町村から本市へ就業している人の割合で最も多いのが西宮市の8.3%で、次いで伊丹市5.5%である。

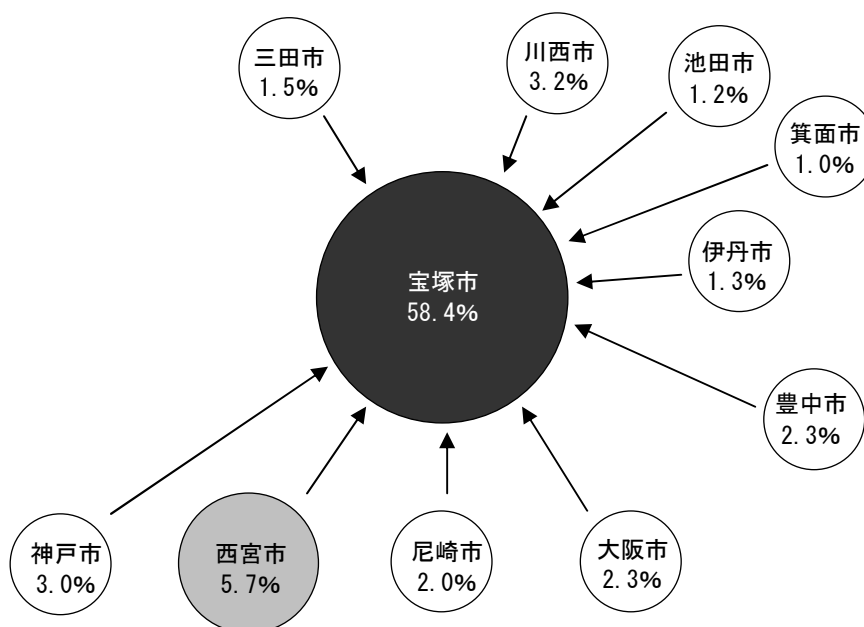


1.0%以上のみ図示

資料：平成22年10月1日現在 「国勢調査」

② 通学者

宝塚市に在住し、市内に通学している人の割合は58.4%である。一方、他の市町村から本市へ通学している人の割合で最も多いのが西宮市5.7%で、次いで川西市の3.2%である。



1.0%以上のみ図示

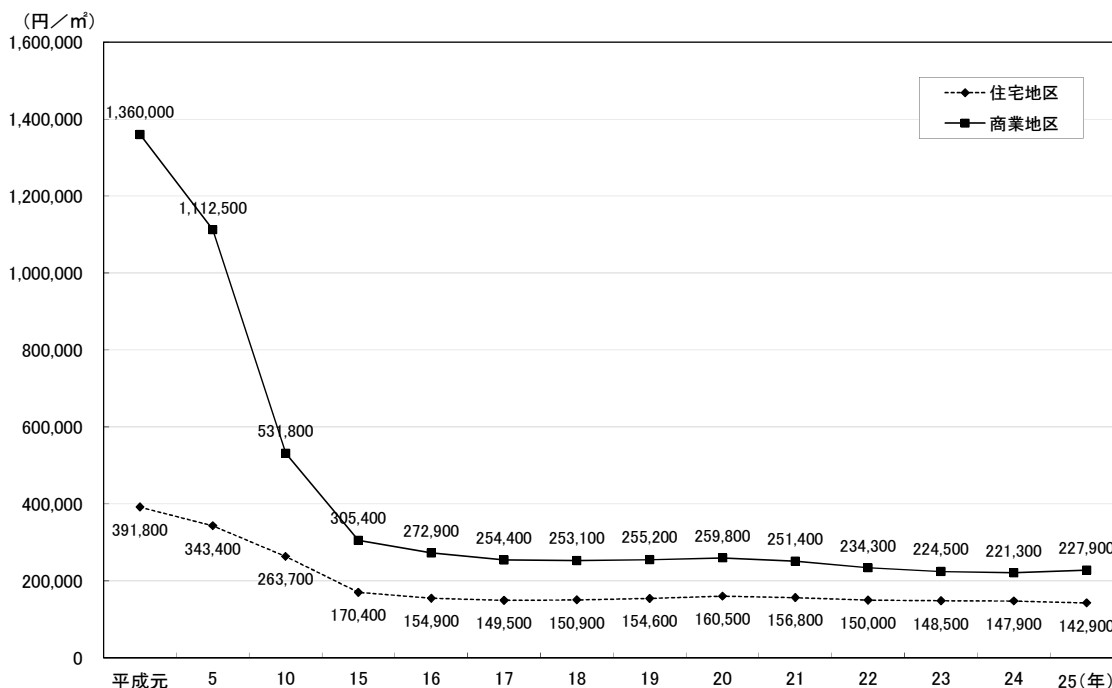
資料：平成22年10月1日現在 「国勢調査」

3. 土地利用、建設・住宅

(1) 1㎡当たりの地価公示の推移

過去25年間の本市の1㎡当たりの地価公示の平均価格の推移をみると、商業地において平成元年～18年は下落し、平成19年～20年には微増に転じたものの、その後再び微減傾向にあり、平成25年においては227,900円/㎡となっている。

住宅地においては、商業地と同様に平成元年～17年は下落していたが、その後微増し、平成21年から再び微減傾向にあり、平成25年においては142,900円/㎡となっている。



資料：各年1月1日現在 「国土交通省地価公示」

(2) 木造・非木造家屋の棟数及び床面積の推移

木造・非木造家屋の棟数及び床面積は共に増加している。平成24年時点で、木造棟数は41,719棟で全体の71.1%、木造床面積は4,599,840㎡で全体の41.7%となっている。

年次	棟数			床面積 (㎡)		
	総数	木造	非木造	総数	木造	非木造
平成13年	51,621	36,668	14,953	9,398,192	3,912,094	5,486,098
平成14年	52,318	37,090	15,228	9,611,223	3,973,684	5,637,539
平成15年	52,820	37,446	15,374	9,711,680	4,030,271	5,681,409
平成16年	53,532	37,906	15,626	9,920,708	4,096,399	5,824,309
平成17年	54,323	38,479	15,844	10,051,762	4,172,275	5,879,487
平成18年	54,952	38,914	16,038	10,242,749	4,231,481	6,011,268
平成19年	55,597	39,401	16,196	10,397,286	4,296,194	6,101,092
平成20年	56,239	39,844	16,395	10,555,155	4,357,146	6,198,009
平成21年	56,819	40,258	16,561	10,709,241	4,410,202	6,299,039
平成22年	57,419	40,725	16,694	10,798,742	4,469,997	6,328,745
平成23年	58,105	41,238	16,867	10,951,248	4,536,169	6,415,079
平成24年	58,689	41,719	16,970	11,032,985	4,599,840	6,433,145

課税対象のもの

資料：各年1月1日現在 資産税課 「宝塚市統計書」

(3) 建築時期別住宅数

建築時期別住宅数をみると、昭和 46～55 年が 19.5%と最も多く、次いで平成 8～12 年が 18.3%となっている。

新耐震基準以前(昭和 55 年以前)の住宅数は、合計すると 24,680 棟で全体の 28.9%である。構造が木造・防火木造で、かつ昭和 55 年以前建築の住宅棟数は、合計 13,760 棟で全体の 16.1%である。

建築の時期	総数	住宅の種類		構造				
		専用住宅	店舗その他併用住宅	木造	防火木造	鉄筋・鉄骨コンクリート造	鉄骨造	その他
昭和 35 年以前	2,070 2.4%	2,070 2.4%	0 0.0%	1,160 5.8%	380 2.1%	530 1.3%	0 0.0%	0 0.0%
昭和 36～45 年	5,980 7.0%	5,940 7.0%	40 6.7%	2,610 13.0%	1,340 7.3%	1,890 4.6%	120 2.1%	20 5.0%
昭和 46～55 年	16,630 19.5%	16,450 19.4%	180 30.0%	5,270 26.3%	3,000 16.3%	7,170 17.6%	1,190 21.1%	0 0.0%
昭和 56～平成 2 年	14,840 17.4%	14,820 17.5%	20 3.3%	3,100 15.5%	2,660 14.4%	8,270 20.3%	750 13.3%	50 12.5%
平成 3～7 年	9,670 11.3%	9,640 11.4%	40 6.7%	1,450 7.2%	1,810 9.8%	5,620 13.8%	640 11.3%	160 40.0%
平成 8～12 年	15,600 18.3%	15,400 18.2%	200 33.3%	2,020 10.1%	3,490 18.9%	9,030 22.2%	1,010 17.9%	40 10.0%
平成 13～17 年	10,630 12.5%	10,600 12.5%	30 5.0%	2,050 10.2%	3,340 18.1%	3,940 9.7%	1,240 22.0%	70 17.5%
平成 18～20 年 9 月	3,240 3.8%	3,240 3.8%	0 0.0%	710 3.5%	1,290 7.0%	1,120 2.7%	120 2.1%	0 0.0%
住宅総数	85,290 100.0%	84,700 100.0%	600 100.0%	20,030 100.0%	18,460 100.0%	40,750 100.0%	5,640 100.0%	400 100.0%

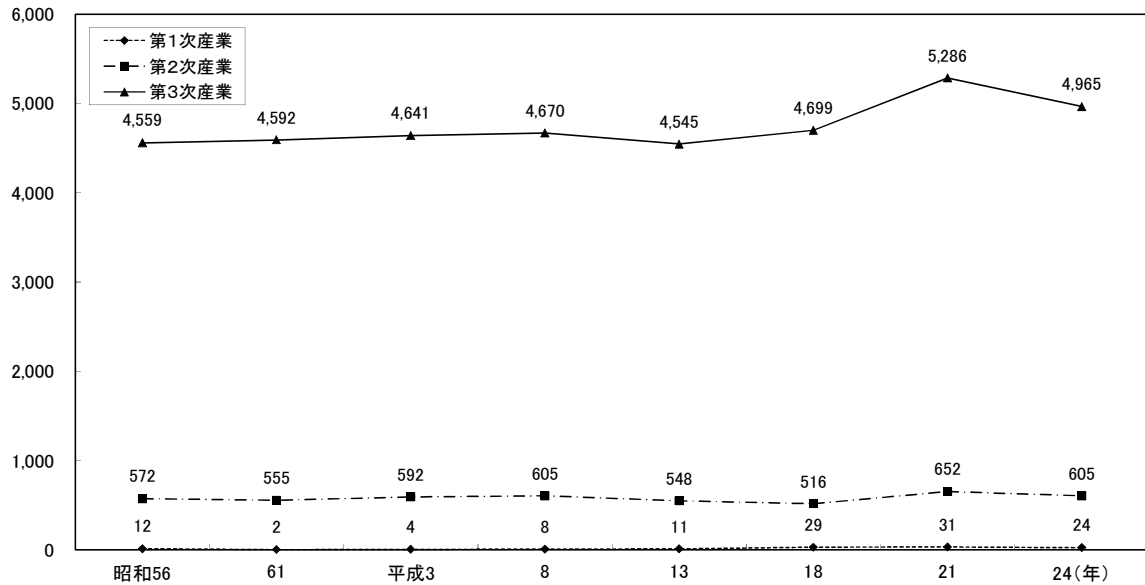
建築の時期「不詳」を含む。(平成 20 年)

資料：総務省統計局「住宅・土地統計調査報告」 「宝塚市統計書」

4. 工業、商業

(1) 産業別事業所数の推移

第一次産業の事業所数は、昭和 61 年以降増加する傾向にある。第二次産業では、平成 8 年以降減少している。第三次産業は、平成 13 年に一旦減少したが、その後増加する傾向にある。平成 24 年の事業所数は、第一次産業 24、第二次産業 605、第三次産業 4,965 であった。

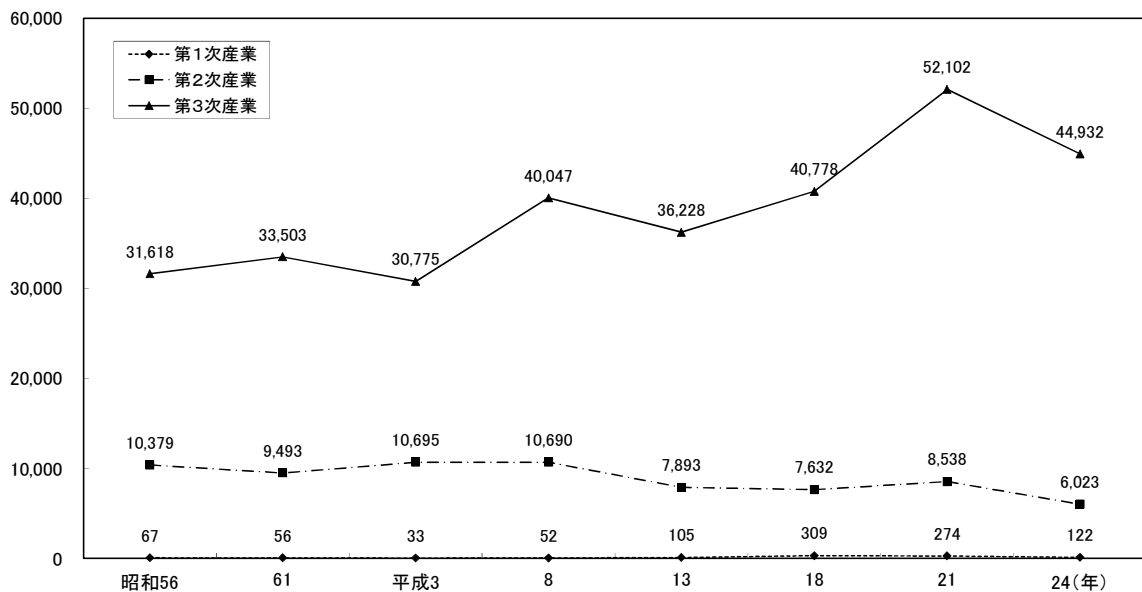


平成 3 年以前は 7 月 1 日現在、平成 8 年～18 年は 10 月 1 日現在、平成 21 年は 7 月 1 日現在、平成 24 年は 2 月 1 日、第一次産業で個人経営の農・林・漁家等は含まない。

資料：平成 19 年以前は総務省統計局「事業所・企業統計調査報告」、平成 21 年以降は経済センサス注：平成 18 年以前と平成 21 年以降は調査が異なるため、単純な経年比較はできない。

(2) 産業別従業者の推移

産業別従業者数の推移は、第三次産業で増加する傾向であったが、平成 24 年で減少し 44,932 人となっている。第二次産業では減少する傾向にあり、平成 24 年で 6,023 人となっている。



平成 3 年以前は 7 月 1 日現在、平成 8 年～18 年は 10 月 1 日現在、平成 21 年は 7 月 1 日現在、平成 24 年は 2 月 1 日、第一次産業で個人経営の農・林・漁家等は含まない。

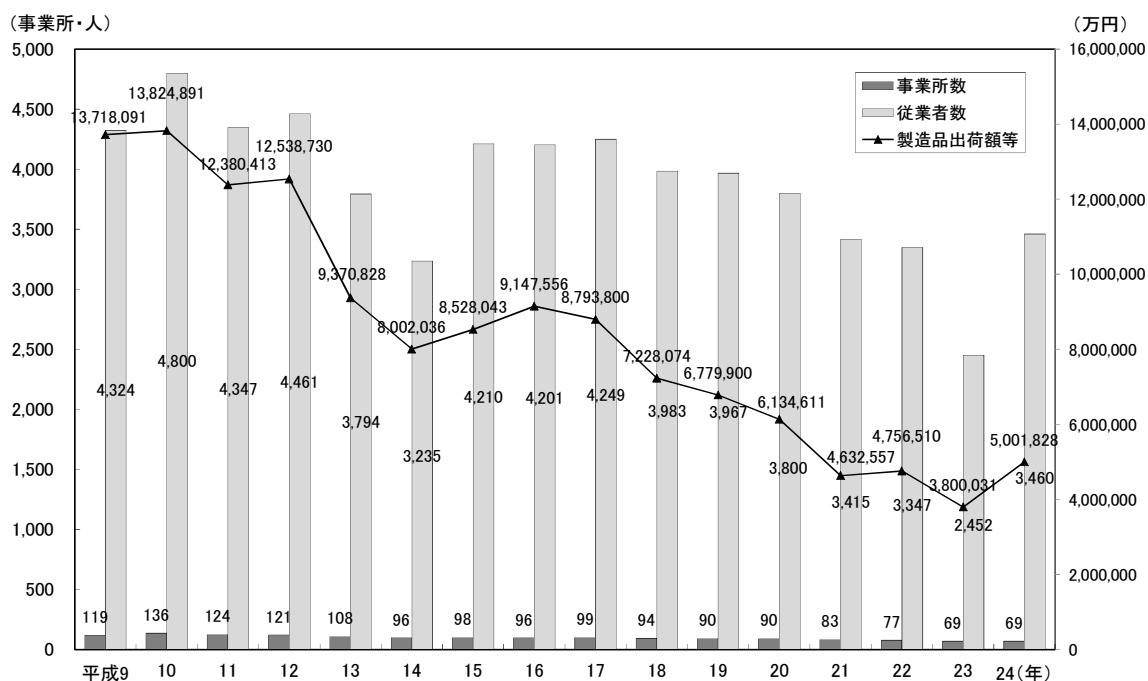
資料：平成 19 年以前は総務省統計局「事業所・企業統計調査報告」、平成 21 年以降は経済センサス注：平成 18 年以前と平成 21 年以降は調査が異なるため、単純な経年比較はできない。

(3) 製造品出荷額等の推移

製造品出荷額等は、平成12～14年に大きく減少した。その後一旦増加したが、平成17年以降再び減少してきている。平成9年の製造品出荷額等は1,372億円であったが、平成24年は500億円となり、約4割まで落ち込んでいる。平成23年の落ち込みは東北地方太平洋沖地震の影響が大きい。

事業所数は、平成10年から一貫して減少傾向にあり、平成24年では69事業所である。

従業者数は、平成9～12年にはやや増加したが、平成13～15年に大きく減少し、その後も減少傾向にある。平成24年で3,460人であり、製造品出荷額等と同様、平成23年の落ち込みは東北地方太平洋沖地震の影響が大きい。



従業者数3人以下の事業所は含まない。

資料：県統計課「兵庫県工業統計調査結果報告」（「宝塚市統計書」）

(4) 近年の大規模な工場閉鎖

近年、本市において大規模な工場閉鎖が相次いでおり、前述の製品出荷額、従業者数の減少をもたらしているとともに、閉鎖等に伴う大規模用地の転用が課題となっている。

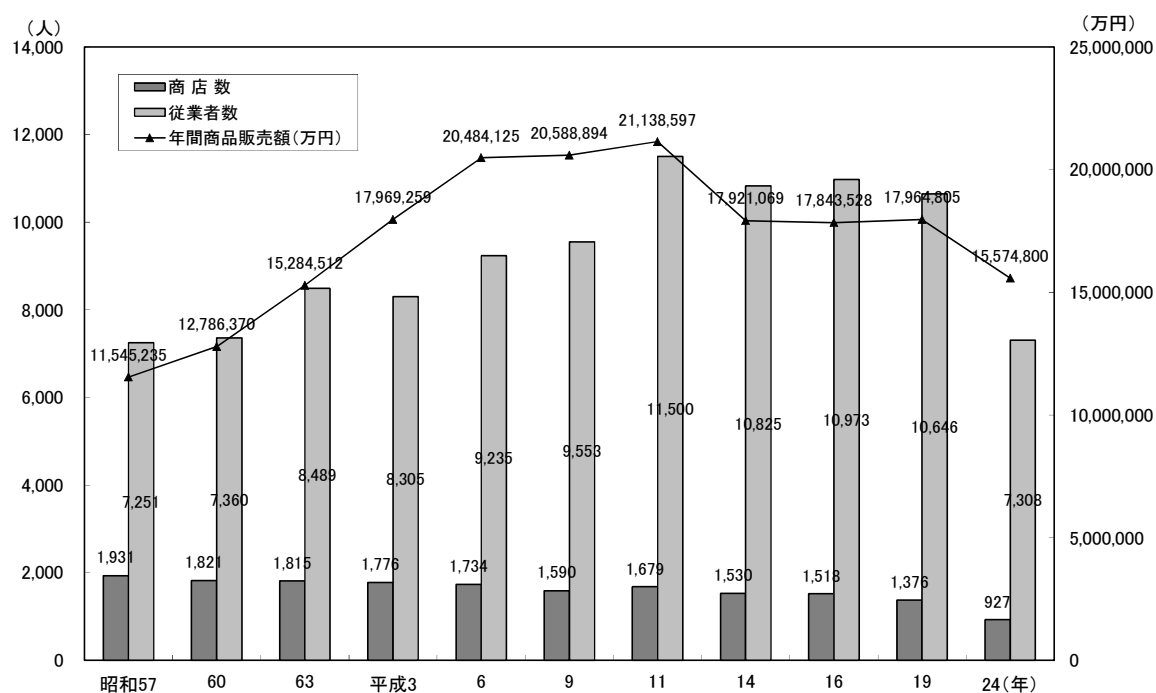
異動日	事業所名	異動事由	従業者数	地籍 (m ²)
平成13年3月	ノバルティス・ファーマ(株)宝塚事業所	東京(事業所)・筑波(研究所)へ移転	97	18,655.39
平成13年11月	チバ・スペシャルティ・ケミカルズ(株)関西支社	大阪本社・尼崎研究センターへ移転	160	9,917.36
平成14年1月	(株)有川製作所	閉鎖・自己破産	57	9,599.66
平成14年3月	コニカゼラチン(株)	解散	51	18,133.35
平成14年4月	雪印食品(株)宝塚工場	閉鎖	148	10,726.03
—	尼崎電子(株)	—	—	3,530.55
平成21年3月	N T N(株)宝塚製作所	閉鎖	310	88,340.53

—は不明。資料：宝塚市調査

(5) 商業（卸売及び小売）の推移

商業の推移をみると、商店数は昭和 57 年 1,931 から平成 24 年 927 と一貫して減少してきている。

一方、従業者数は、平成 11 年までは増加してきたが、その後減少しており、平成 24 年では 7,308 人である。年間商品販売額についても、平成 11 年までは増加してきたが、それ以降減少しており、平成 24 年では 1,557 億円となっている。



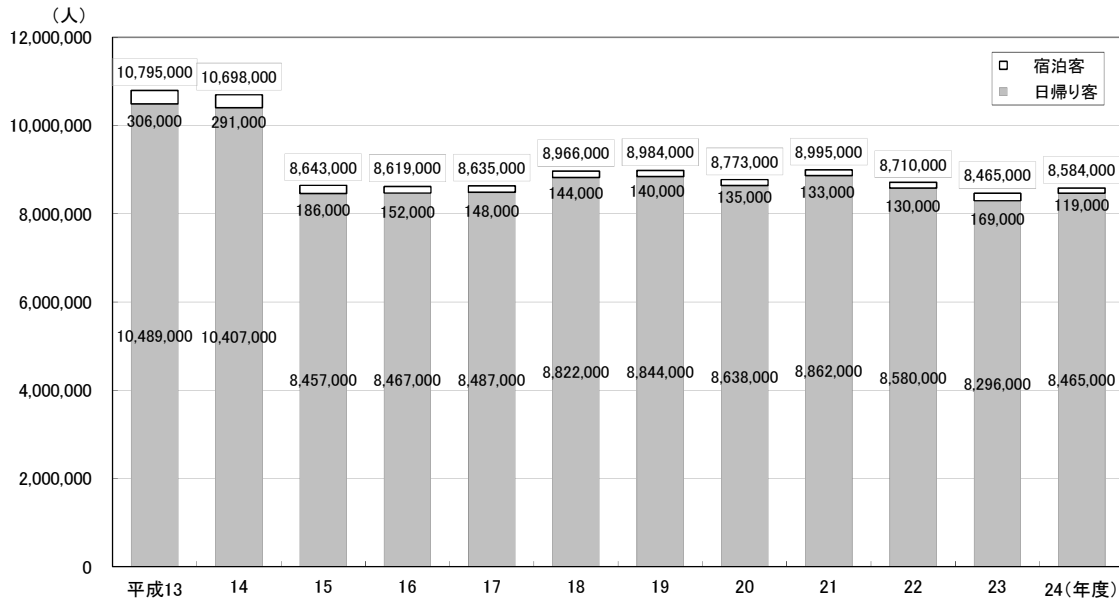
昭和 57・63 年 平成 9・14・16・19 年は 6 月 1 日現在、昭和 60 年は 5 月 1 日現在、平成 3・6・11 年は 7 月 1 日現在、平成 24 年は 2 月 1 日現在

資料：平成 24 年は「経済センサス-活動調査結果報告」、平成 24 年以外は県統計課「商業統計調査結果表」（「宝塚市統計書」）

5. 観光

(1) 観光客数の推移

観光客数の推移は、平成 15 年の宝塚ファミリーランドの閉園により宿泊客、日帰客が大幅に減少し、年間の観光客数は約 860 万人となった。その後は、宿泊客は年間 12 万～17 万人で推移しているが、日帰り客については平成 18 年～21 年度に年間 880 万人まで増加したが、平成 22 年度は減少した。平成 24 年度の観光客数は、約 858 万人となっている。



資料：観光企画課 「宝塚市統計書」

(2) 観光資源

日帰り温泉施設「ナチュラルスパ宝塚」（平成 18 年 2 月リニューアル）や西谷ふれあい夢プラザ内にある西谷産野菜等の直売所や加工品の製造施設等を備えた「西谷夢市場」（平成 17 年 11 月開設）、兵庫県が都市近郊型里山公園として整備した「西谷の森公園」（平成 20 年 7 月開設）といった観光資源も生まれてきている。

まつりやイベントについては、大正 2 年から開催されている伝統のある「宝塚観光花火大会」のほか、「宝塚だんじりパレード」、「花と緑のフェスティバル」、「宝塚サマーフェスタ」などが開催されており、平成 25 年には、新しいイベントとして「宝塚アニメタウンフェスタ」が開催された。

平成 25 年 12 月には、阪急中山駅から阪急中山観音駅に改称され、中山寺への来訪者に分かりやすい駅名となった。また、平成 26 年は宝塚歌劇団の 100 周年であり、記念イベントや記念講演等が開催されており、賑わいをみせている。さらに、平成 26 年は J R A（日本中央競馬会）の 60 周年でもあり、宝塚（阪神）競馬場では各種イベントなどが展開されている。

「宝塚ガーデンフィールズ」は平成 25 年 12 月に閉園したが、その周辺は、「宝塚大劇場」、「宝塚文化創造館」（宝塚音楽学校旧校舎）や手塚治虫記念館などがあり、本市の観光文化の中心地域となっている。そのため、この跡地については、緑に包まれた良好な環境を生かしながら、周辺施設との連携、回遊性を高め、かつ、新たな宝塚文化の創造につながる文化芸術などを中心とした機能を有する施設を整備する方針が示されている。

(人)

項目		平成 24 年度
社寺参拝	清荒神	3,120,000
	中山寺	1,376,000
まつり	花火大会	100,000
	小浜宿まつり	7,000
	花と緑のフェスティバル	24,000
	その他	51,000
温泉	宝塚温泉	110,000
	武田尾温泉	9,000
	ナチュラルスパ宝塚	68,000
	その他	376,000
公園・遊園地	宝塚歌劇	1,014,000
	あいあいパーク	942,000
	長谷牡丹園	4,000
	その他	317,000
ハイキング・キャンプ	宝塚自然の家	44,000
植木関係	植木まつり	33,000
その他・ゴルフ・テニス		559,000
その他・施設見学		430,000

資料：観光企画課 「宝塚市統計書」

表 観光客数

6. 道路、鉄道

(1) 道路の概況

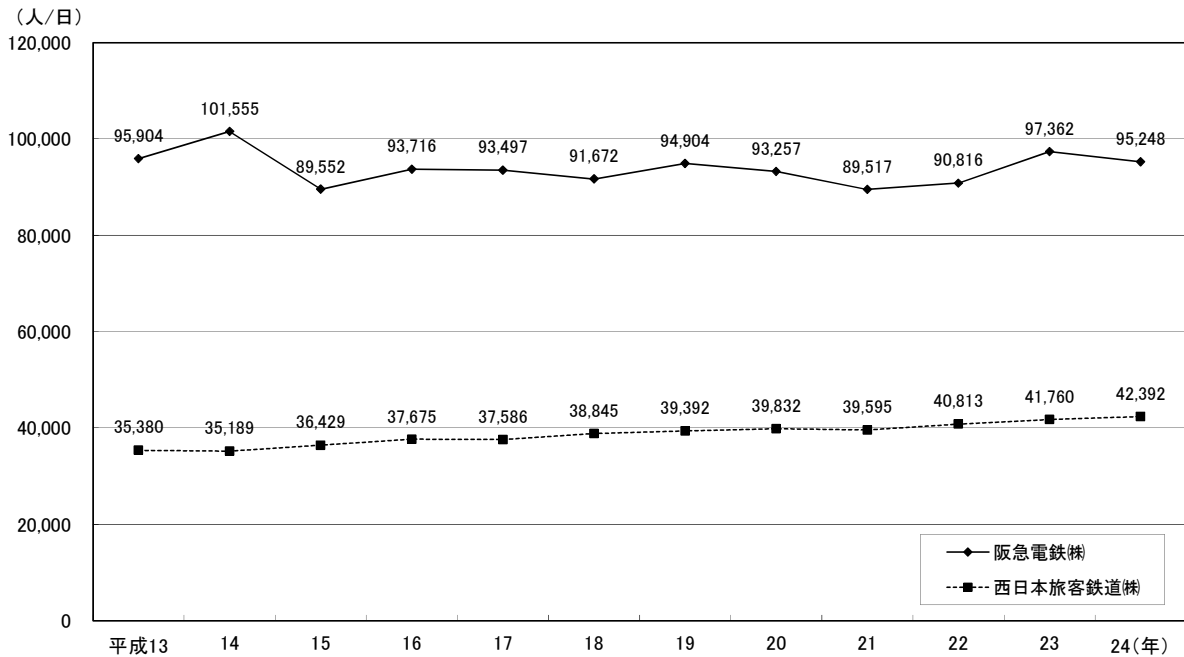
道路の概況は、路線数は平成 24 年度末で、国道 1、県道 19、市道 4,001、高速道路 1 で、総数 4,022 となっている。経年変化としては、延長、面積ともに増加してきている。

	年度	総数	国道	県道	市道	高速道路
路線	平成 13 年度末	3,874	1	19	3,853	1
	平成 14 年度末	3,893	1	19	3,872	1
	平成 15 年度末	3,908	1	19	3,887	1
	平成 16 年度末	3,910	1	19	3,889	1
	平成 17 年度末	3,947	1	19	3,926	1
	平成 18 年度末	3,819	1	19	3,798	1
	平成 19 年度末	3,843	1	19	3,822	1
	平成 20 年度末	3,863	1	19	3,842	1
	平成 21 年度末	3,893	1	19	3,872	1
	平成 22 年度末	3,899	1	19	3,878	1
	平成 23 年度末	3,927	1	19	3,906	1
	平成 24 年度末	4,022	1	19	4,001	1
延長 (m)	平成 13 年度末	874,295	10,912	55,305	802,239	5,839
	平成 14 年度末	878,830	10,912	58,000	795,146	5,839
	平成 15 年度末	874,280	12,907	58,013	797,521	5,839
	平成 16 年度末	876,027	10,907	58,274	801,007	5,839
	平成 17 年度末	879,582	10,907	58,274	804,562	5,839
	平成 18 年度末	885,739	10,869	58,496	810,535	5,839
	平成 19 年度末	887,188	10,869	58,277	812,203	5,839
	平成 20 年度末	888,837	10,869	58,264	813,965	5,739
	平成 21 年度末	892,012	10,869	58,264	817,140	5,739
	平成 22 年度末	894,288	11,242	58,264	819,043	5,739
	平成 23 年度末	896,773	11,242	58,264	821,528	5,739
	平成 24 年度末	898,673	11,242	58,264	823,428	5,739
面積 (㎡)	平成 13 年度末	4,269,935	180,482	459,098	3,450,265	180,090
	平成 14 年度末	4,346,214	180,588	483,109	3,502,427	180,090
	平成 15 年度末	4,267,906	87,010	489,156	3,511,650	180,090
	平成 16 年度末	4,717,139	229,077	656,642	3,651,330	180,090
	平成 17 年度末	4,771,406	229,077	656,642	3,705,597	180,090
	平成 18 年度末	4,807,573	232,520	658,766	3,736,197	180,090
	平成 19 年度末	4,846,075	232,520	658,369	3,775,096	180,090
	平成 20 年度末	4,876,226	232,520	660,228	3,803,388	180,090
	平成 21 年度末	4,897,224	232,520	660,228	3,824,386	180,090
	平成 22 年度末	4,919,567	247,030	660,228	3,832,219	180,090
	平成 23 年度末	4,929,262	247,030	662,866	3,839,276	180,090
	平成 24 年度末	4,938,519	247,030	662,866	3,848,533	180,090

資料：道路管理課、西日本高速道路㈱関西支社、宝塚土木事務所 「宝塚市統計書」

(2) 市内各駅の乗車人員の推移

市内各駅の乗車人員の平成13～24年の推移をみると、阪急は平成15年と21年に90,000人/日を下回ったが、その後は回復してきており、平成24年には95,248人であった。JRは平成13年以降増加傾向で平成24年は42,392人であった。各駅別では、阪急仁川駅、宝塚駅では増加傾向であるが、それ以外の駅では横ばいか減少傾向である。JRについては中山寺駅の増加の割合が大きい。



	駅名	平成13年	平成14年	平成15年	平成16年	平成17年	平成18年	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	24年/13年
阪急	仁川	9,362	10,315	10,587	11,481	11,543	11,632	11,646	11,449	11,138	11,176	11,636	12,085	1.29
	小林	10,293	10,045	8,788	9,559	9,165	9,065	9,150	9,471	8,644	9,136	8,962	8,911	0.87
	逆瀬川	14,682	14,049	13,028	14,251	12,807	12,947	12,568	12,842	12,659	12,482	13,398	13,066	0.89
	宝塚南口	5,551	5,666	5,077	5,019	5,187	5,539	5,223	5,162	5,509	5,358	5,678	7,012	1.26
	宝塚	23,745	28,805	23,795	23,183	24,335	24,431	26,678	24,860	22,560	23,335	26,693	24,313	1.02
	清荒神	3,551	3,511	2,610	3,408	3,721	3,198	3,373	3,732	3,409	3,565	3,701	3,615	1.02
	売布神社	6,003	6,250	5,035	5,190	5,231	4,720	4,746	4,836	4,821	4,569	5,001	4,758	0.79
	中山	7,282	7,641	6,517	6,685	6,118	6,066	6,612	6,202	5,786	6,004	6,563	6,143	0.84
	山本	8,251	7,999	7,542	8,256	8,852	8,192	8,530	8,573	8,514	8,856	9,343	9,045	1.10
	雲雀丘	7,184	7,274	6,573	6,684	6,538	5,882	6,378	6,130	6,477	6,335	6,387	6,300	0.88
	花屋敷													
	10 駅計	95,904	101,555	89,552	93,716	93,497	91,672	94,904	93,257	89,517	90,816	97,362	95,248	0.99
JR	宝塚	30,260	29,979	30,311	30,540	30,529	30,866	31,027	31,306	30,949	31,837	32,487	33,031	1.09
	武田尾	720	659	646	609	562	550	573	564	589	572	575	574	0.80
	中山寺	4,400	4,551	5,472	6,526	6,495	7,429	7,792	7,962	8,057	8,404	8,698	8,787	2.00
	3 駅計	35,380	35,189	36,429	37,675	37,586	38,845	39,392	39,832	39,595	40,813	41,760	42,392	1.20

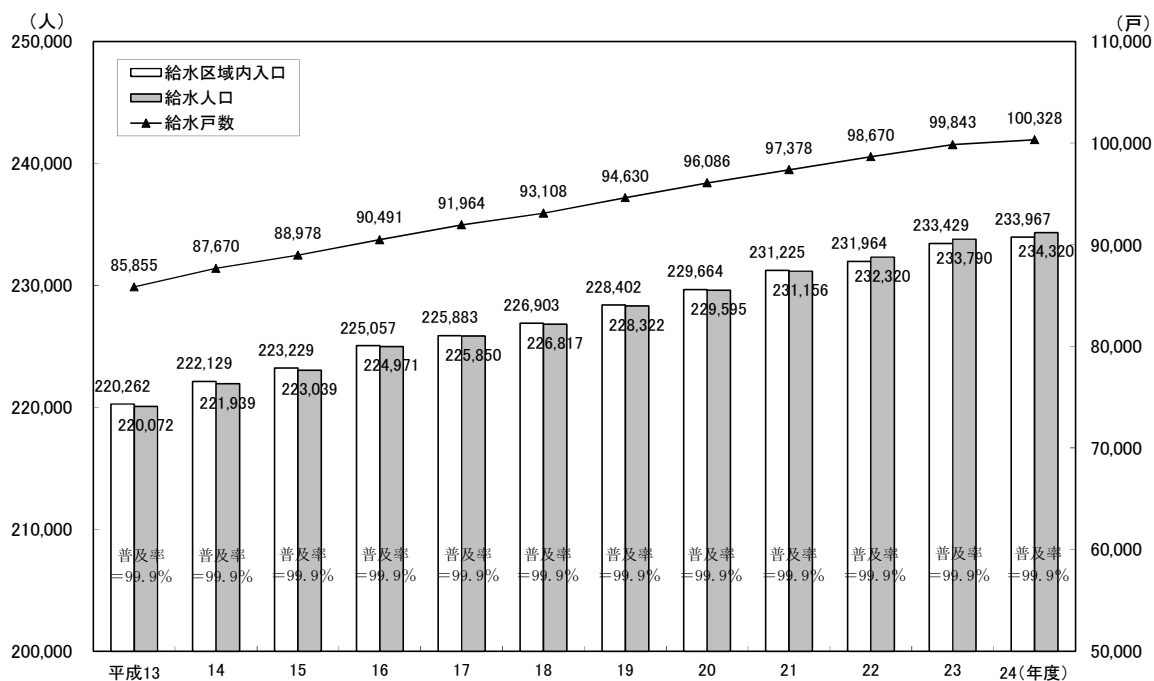
阪急電鉄(株)：調査日平成13年11月13日、平成14年11月12日、平成15年11月11日、平成16年11月9日、平成17年11月8日、平成18年11月14日、平成19年～24年は交通調査によるデータを基に一日平均を算出
西日本旅客鉄道(株)：1日平均

資料：阪急電鉄(株)、西日本旅客鉄道(株)近畿統括本部 「宝塚市統計書」

7. 上下水道

(1) 水道普及状況

水道普及状況は、給水区域内人口の伸びに合わせて、給水人口、給水戸数ともに増加しており、普及率（給水人口／給水区域内人口）は99.9%を維持している。



簡易水道含む(平成14年度から簡易水道は上水道に統合されている)。川西市満願寺地区を含む。
資料：上下水道局資料 「宝塚市統計書」

(2) 公共下水道

公共下水道の整備状況をみると、進捗率（計画処理区域面積に対する処理区域面積の割合）は平成13年以降99%以上で推移していたが、平成24年度は98.8%の進捗率となっている。

年度	公共下水道 計画処理区域面積		処理区域面積		水洗化 世帯数	進捗率(%) (B)/(A)	管きょ延長 (污水管) (m)
	面積 (ha)	世帯数(A)	面積 (ha)	世帯数(B)			
平成13年度	2,662.74	80,749	2,319.1	79,960	76,901	99.0	492,129
平成14年度	2,662.74	82,491	2,320.2	81,744	78,893	99.1	493,767
平成15年度	2,663.74	83,780	2,324.4	83,390	80,660	99.5	495,271
平成16年度	2,663.74	85,349	2,326.1	85,060	82,700	99.7	497,726
平成17年度	2,663.74	85,754	2,344.0	84,453	82,635	98.5	496,262
平成18年度	2,663.74	89,919	2,347.8	89,654	87,974	99.7	502,139
平成19年度	2,663.74	91,424	2,361.7	91,169	89,551	99.7	505,110
平成20年度	2,663.74	92,967	2,370.9	92,757	91,232	99.8	509,128
平成21年度	2,663.74	93,615	2,372.8	93,411	91,983	99.8	511,114
平成22年度	2,663.74	95,362	2,396.6	95,176	93,904	99.8	511,614
平成23年度	2,663.74	96,537	2,400.3	96,369	95,166	99.8	511,933
平成24年度	2,663.74	99,040	2,403.0	98,867	97,632	98.8	512,288

資料：上下水道局 「宝塚市統計書」

8. 福祉、教育

(1) 保育所数及び保育人員の推移

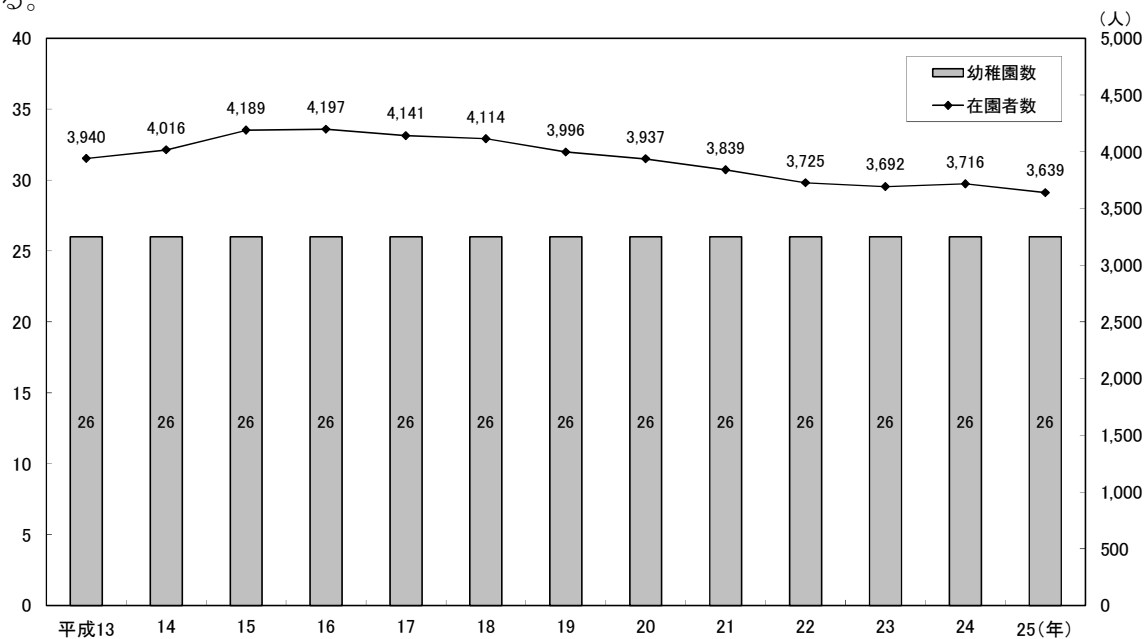
保育所施設数は平成13年17施設、定員1,920人から平成24年25施設、定員2,505人となった。保育人員については、平成18年に減少したが、その後増加傾向にある。保育年齢をみると、平成24年で3歳未満1,152人、3歳526人、4歳以上1,057人であり、3歳未満の増加割合が最も高い。

	施設数	定員	保育人員				職員数	
			総数	3歳未満	3歳	4歳以上	保育士	その他
平成13年	17	1,920	2,015	823	398	794	256	139
平成14年	20	2,010	2,113	898	415	800	271	146
平成15年	21	2,130	2,290	966	454	870	268	145
平成16年	21	2,130	2,351	989	447	915	276	144
平成17年	21	2,130	2,362	969	455	938	284	144
平成18年	21	2,130	2,318	945	452	921	274	139
平成19年	22	2,190	2,346	958	461	930	285	155
平成20年	22	2,190	2,341	981	417	943	301	146
平成21年	23	2,295	2,455	1,028	481	946	296	147
平成22年	23	2,325	2,490	1,074	489	927	297	145
平成23年	24	2,385	2,626	1,103	507	1,016	322	168
平成24年	25	2,505	2,735	1,152	526	1,057	329	155
24年/13年	147%	130%	136%	140%	132%	133%	129%	112%

各年10月1日現在。「保育状況報告」による。
職員数その他は、所長、調理士、事務用務員等
入所者数には、他市受託を含む。
資料：保育課 「宝塚市統計書」

(2) 幼稚園数及び在園者数の推移

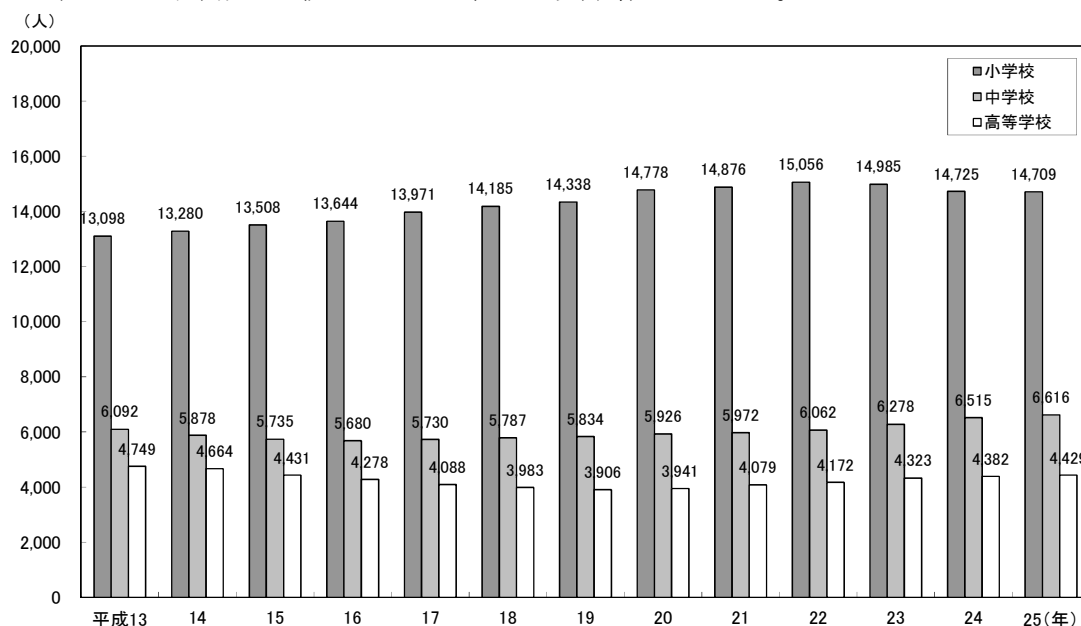
幼稚園数及び在園者数の推移をみると、施設数は26で平成13年以降変化はない。在園者数は平成15年までは増加していたが、それ以降減少しており、平成25年で3,639人となっている。



「学校基本調査」(各年5月1日現在)による。
資料：県統計課「学校基本調査結果」(「宝塚市統計書」)

(3) 小学校児童数及び中学校・高等学校生徒数の推移

小学校児童数は、平成 22 年まで毎年増加していたが、その後減少に転じている。中学校生徒数については、平成 16 年まで減少していたが、それ以降増加している。高等学校生徒数は、平成 19 年までは毎年減少を続けていたが、それ以降増加している。



「学校基本調査」(各年 5 月 1 日現在)による。
資料：県統計課「学校基本調査結果」(「宝塚市統計書」)

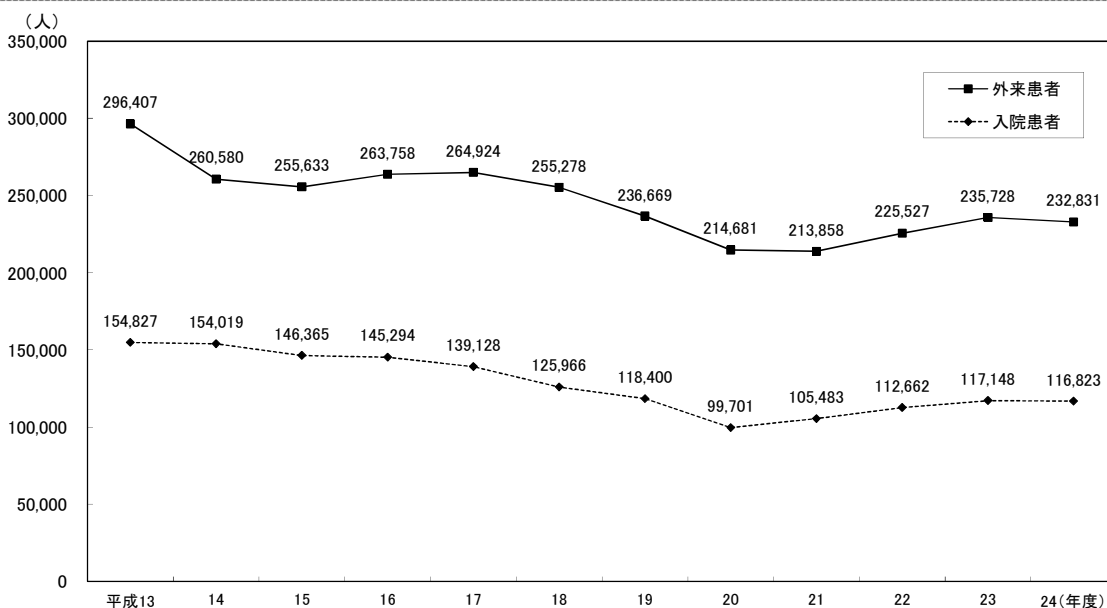
(4) 市立病院利用状況

利用状況をみると、外来患者は平成 21 年度まで減少傾向であったが、平成 22 年度から増加傾向にあり、平成 24 年度は 232,831 人であった。入院患者も、平成 20 年度まで減少を続けていたが、平成 21 年度から増加傾向にあり、平成 24 年度は 116,823 人であった。

市立病院は、平成 25 年 11 月 12 日、兵庫県より「地域医療支援病院」に承認された。

(地域医療支援病院)

患者が地域で安心して継続した医療を受けられるために、地域医療の中心的役割を担う病院である。



資料：市立病院経営統括部「宝塚市統計書」

(5) 市内医療従事者数の推移

市内の医療従事者数の推移をみると、医師は平成12年度以降増加してきており平成24年度には365人であった。歯科医師及び薬剤師も同様に増加傾向で、平成24年度にはそれぞれ166人、476人であった。また、看護師については、平成12年度717人から平成24年度1,373人と約1.9倍の人数となっている。

年 度	医師	歯科医師	薬剤師	保健師	助産師	看護師	准看護師
平成12年度	266	123	255	35	37	717	319
平成14年度	301	131	380	33	38	842	285
平成16年度	324	143	383	30	30	913	291
平成18年度	342	149	419	33	35	1,017	325
平成20年度	347	154	403	41	26	1,092	315
平成22年度	359	156	437	53	27	1,257	314
平成24年度	365	166	476	58	30	1,373	283

医師・歯科医師・薬剤師数は、従業地による。
保健師・助産師・看護師・准看護師数は業務従事者届による。
調査は隔年で、12月31日現在。
資料：県統計書 「宝塚市統計書」

9. 安全、都市防災

(1) 刑法犯罪

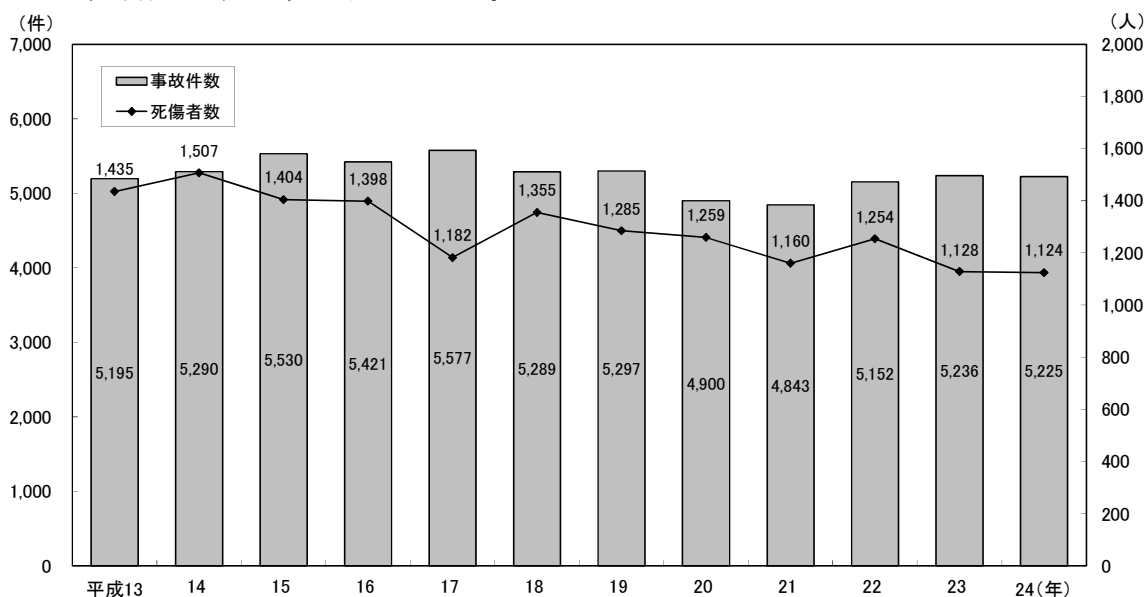
刑法犯罪発生件数の総数をみると、平成14年5,310件を境に、それ以降年々減少傾向である。平成24年では2,337件となり、約30%の減少となっている。また、検挙件数は平成21年をピークに減少している。一方、平成13年に14.2%であった検挙率（検挙件数／刑法犯罪発生件数）は、平成24年には22.8%に上昇している。

		総数	凶悪犯				一般犯				
			殺人	強盗	放火	強姦	粗暴犯	窃盗	知能犯	風俗犯	その他
発生 件数	平成13年	3,320	1	2	1	0	76	2,696	55	9	480
	平成14年	5,310	0	8	1	1	115	4,251	80	7	847
	平成15年	4,624	1	5	1	1	93	3,670	50	8	795
	平成16年	4,000	0	5	0	4	74	3,031	115	7	764
	平成17年	3,287	0	3	1	4	88	2,504	110	14	563
	平成18年	3,071	1	11	2	3	116	2,299	85	9	545
	平成19年	3,036	2	3	1	2	106	2,324	71	20	507
	平成20年	2,894	1	1	0	3	122	2,200	63	20	484
	平成21年	2,675	0	7	0	5	96	1,974	43	26	524
	平成22年	2,472	3	10	2	0	89	1,795	50	15	508
	平成23年	2,327	1	8	1	1	98	1,719	26	10	463
平成24年	2,337	3	6	1	1	112	1,731	35	13	435	
検挙 件数	平成13年	473	1	0	1	0	36	281	23	4	127
	平成14年	747	0	7	1	0	52	443	47	4	193
	平成15年	849	1	2	1	1	52	575	6	6	205
	平成16年	738	0	5	0	2	50	344	53	3	281
	平成17年	814	0	0	1	2	71	489	29	8	214
	平成18年	818	1	12	1	7	68	478	14	4	233
	平成19年	693	2	1	1	0	74	416	12	6	181
	平成20年	603	1	1	0	0	62	398	7	5	129
	平成21年	889	0	5	0	3	73	610	19	15	164
	平成22年	599	3	10	2	2	55	356	36	11	124
	平成23年	507	1	3	0	1	78	279	37	6	102
平成24年	533	3	6	0	1	81	281	35	11	115	
検挙 人員	平成13年	408	1	0	1	0	43	208	14	3	138
	平成14年	561	0	8	1	0	74	252	11	4	211
	平成15年	537	1	2	1	0	68	248	4	5	208
	平成16年	578	0	7	0	2	50	215	11	3	290
	平成17年	615	0	1	0	2	76	298	11	5	222
	平成18年	586	1	4	1	9	84	238	12	2	235
	平成19年	512	2	1	1	0	83	230	9	4	182
	平成20年	395	1	1	0	0	67	193	4	3	126
	平成21年	525	0	4	0	3	71	267	14	8	158
	平成22年	440	1	5	3	0	56	244	11	8	112
	平成23年	393	1	3	0	1	77	197	10	6	98
平成24年	379	3	4	0	1	77	172	11	7	104	
検挙 率	平成13年	14.2%									
	平成14年	14.1%									
	平成15年	18.4%									
	平成16年	18.5%									
	平成17年	24.8%									
	平成18年	26.6%									
	平成19年	22.8%									
	平成20年	20.8%									
	平成21年	33.2%									
	平成22年	24.2%									
平成23年	21.8%										
平成24年	22.8%										

資料：宝塚警察署 「宝塚市統計書」

(2) 交通事故件数及び死傷者数

交通事故件数について、平成18年～21年までは減少していたが、平成22年～24年にかけて再び5,000件台に増加している。死傷者数については、平成14年をピークにそれ以降減少傾向にあり、平成24年は1,124人であった。

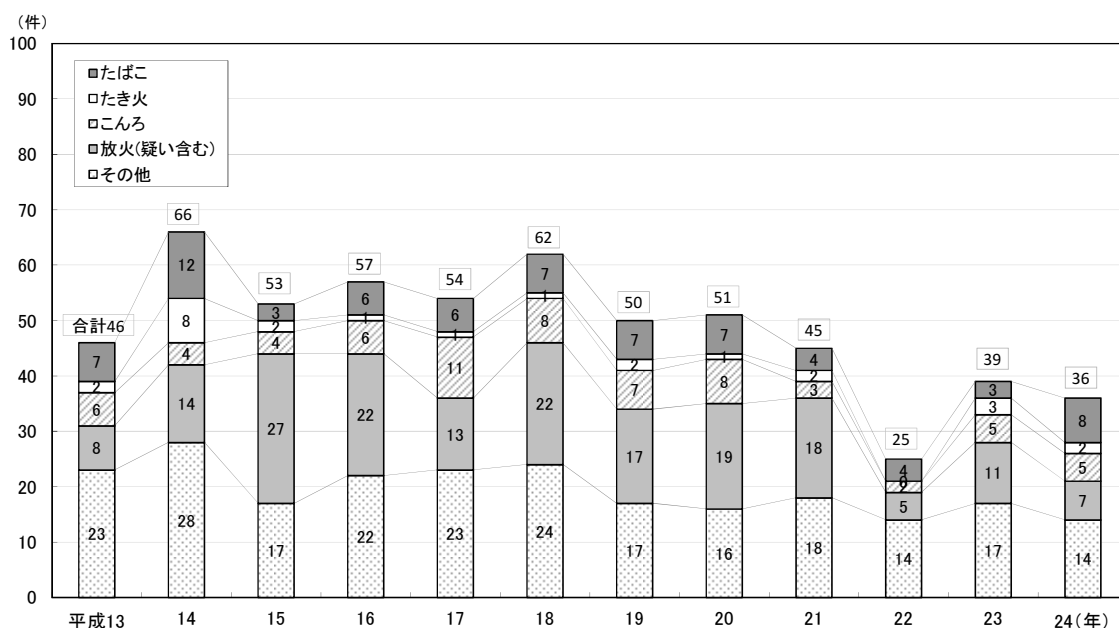


資料：宝塚警察署 「宝塚市統計書」

(3) 原因別火災発生件数

火災発生件数は、増加減少を繰り返していたが、平成19年からは減少傾向にあり、平成24年には36件となった。

原因別にみると、毎年第1位は放火であったが、平成24年度はたばこが第1位で8件となった。



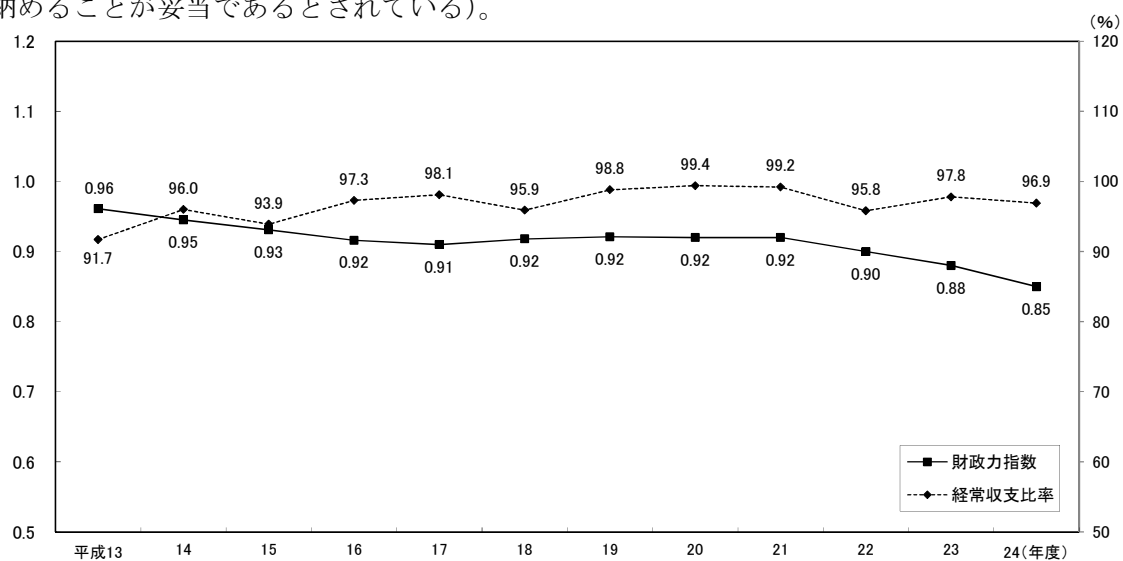
その他の項目には、不明、調査中等を含む。
資料：消防本部 「宝塚市統計書」

10. 財政

(1) 財政力指数と経常収支比率の推移

自治体の財政力の強弱を示す「財政力指数」（自治体が当然に行うべき仕事に要する費用が自らの基本的な収入によってどの程度賄われているかを表す指標。財政力指数が「1」以上になると、地方交付税の不交付団体になる。）は、平成17年度以降は横ばい状態であったが、平成22年度から減少し、平成24年度には0.85となった。

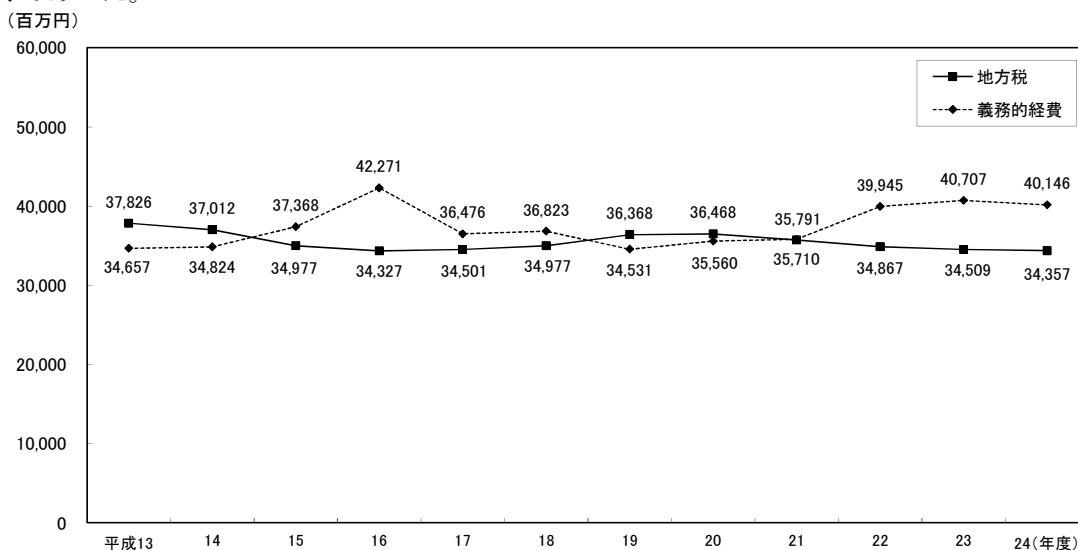
また、自治体が自由に使うことができる一般財源が義務的に必要な経常的経費にどの程度使われているかを表す「経常収支比率」は、平成24年度には96.9%となっている。財政構造の弾力性が失われつつあると言われる80%を大幅に超えている状況である（都市では75%程度に納めることが妥当であるとされている）。



※経常収支比率：減税補てん債及び臨時財政対策債を除いた数値
資料：「決算状況」

(2) 地方税収入と義務的経費の推移

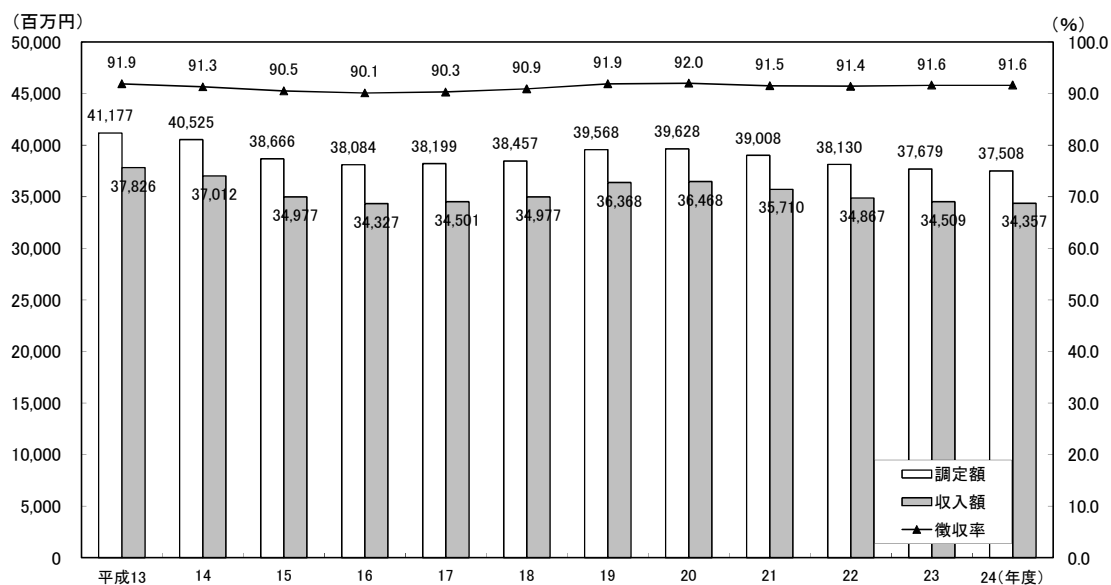
義務的経費の推移をみると平成22年度から増加傾向にあり、平成24年度には401億円であった。地方税収入については平成20年度をピークに減少傾向にあり、平成24年度には344億円であった。



資料：「決算状況」

(3) 市税徴収状況

市税徴収状況について、平成13年度以降低下してきた調定額及び収入額は、平成17年度以降増加に転じたが、平成21年度から再び減少傾向にある。徴収率は、90～92%で推移している。平成24年度は、調定額375億円、収入額343億円、徴収率91.6%であった。

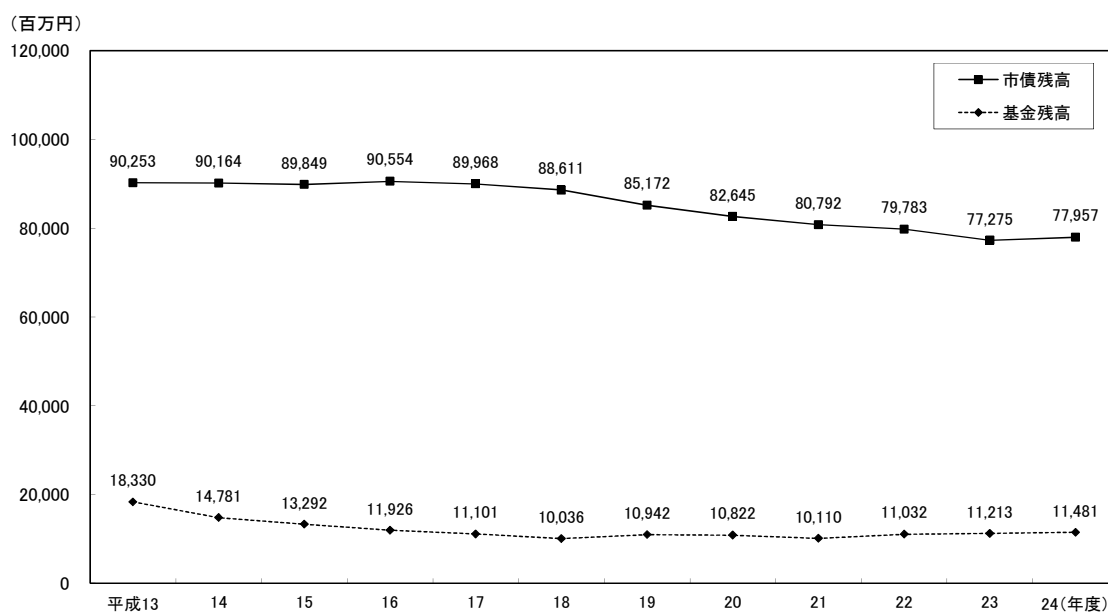


資料：市税収納課 「宝塚市統計書」

(4) 市債残高と基金残高の推移

市の借金である市債残高は、平成17年度まではほぼ横ばいであったが、それ以降減少し、平成24年度には780億円となっている。

一方、市の貯金にあたる基金の残高は、平成18年度までは年々減少してきたが、平成19年度にはやや回復し、平成24年度には115億円となっている。



資料：「宝塚市の財政状況」